

## 技術評価報告書

申込者：株式会社伊藤製鐵所 代表取締役社長 伊藤 壽健  
東京都千代田区神田小川町 1-3-1 NBF 小川町ビルディング 5階

技術名称： オニプレート定着工法 FRIP 定着工法 RCS 混合構造設計指針(2026年)

当法人「建築構造技術審議委員会」において慎重審議の結果、2026年3月11日付けの技術評価書(SABTEC 評価 17-04R4)の通り、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、本技術は妥当なものであると判断されたことを報告する。

2026年3月11日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構

代表理事 益尾 潔

### 建築構造技術審議委員会

委員長	窪田 敏行	近畿大学	名誉教授
副委員長	田才 晃	横浜国立大学	名誉教授
委員	磯 雅人	福井大学大学院工学研究科	教授
〃	岸本 一蔵	近畿大学建築学部建築学科	教授
〃	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
〃	都祭 弘幸	福山大学工学部建築学科	教授
〃	三谷 勲	神戸大学	名誉教授

### RCS 混合構造設計指針 専門部会

主査	田中 剛	神戸大学大学院工学研究科	教授
委員	都祭弘幸	福山大学工学部建築学科	教授



## 技術評価書

申込者：株式会社伊藤製鐵所 代表取締役社長 伊藤 壽健  
東京都千代田区神田小川町 1-3-1 NBF 小川町ビルディング 5階

技術名称： オニプレート定着工法 FRIP 定着工法 RCS 混合構造設計指針(2026年)

技術概要： 2017年版の SABTEC 評価 17-04(2017年7月21日)は、鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編について行われ、2018年版の SABTEC 評価 17-04R1(2018年5月15日)は、鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編を改定し、鉄骨根巻き柱脚・基礎梁主筋定着部編を追加し、2022年版の SABTEC 評価 17-04R2(2022年9月12日)は、柱主筋の適用鋼種に SD490 を追加した柱 RC 梁 S 接合部・柱 SRC 梁 S 接合部編を改定し、2025年版の SABTEC 評価 17-04R3(2025年12月24日)は、新規の既製品露出柱脚を含めた鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編を改定している。

また、2026年版の SABTEC 評価 17-04R4(2026年3月11日)は、鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編 3章(2)柱型部配筋詳細の構造規定(a)アンカーボルトを改定し、併せて基礎梁主筋定着部は第三者機関の技術評価を取得した杭頭工法を適用した場合、基礎梁下端筋を機械式直線定着としてもよいとしている。

RCS 混合構造設計指針は、SRC 柱梁接合部編、柱 RC 梁 S 接合部・柱 SRC 梁 S 接合部編、鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編、鉄骨根巻き柱脚・基礎梁主筋定着部編からなる。

本委員会は、一般社団法人建築構造技術支援機構「建築構造技術検証要綱」で定めた技術基準と照らし合わせ、下記の通り、本技術は妥当なものであると判断した。

2026年3月11日

一般社団法人  
建築構造技術支援機構  
建築構造技術審議委員会  
委員長 窪田 敏行

### 記

評価方法： 申込者提出の下記資料によって、技術評価を行った。  
オニプレート定着工法 FRIP 定着工法 RCS 混合構造設計指針(2026年)  
この資料には、本技術の目標性能達成の妥当性を確認した技術資料がまとめられている。この資料のほかに、関連資料が提出されている。

評価内容： 申込者提案のオニプレートおよび FRIP 定着板を用いた異形鉄筋定着部は、設計で保証すべき長期荷重時、短期荷重時および終局耐力時の要求性能を満足すると判断される。

## 技術評価内容

### 申込者

株式会社伊藤製鐵所  
代表取締役社長 伊藤 壽健  
東京都千代田区神田小川町1-3-1 NBF小川町ビルディング5階

### 技術名称

オニプレート定着工法 FRIP定着工法 RCS混合構造設計指針(2026年)

### 適用範囲

- 建築物の構造 鉄骨鉄筋コンクリート造およびそのプレキャストコンクリート造  
ならびに柱RC梁S混合構造、柱SRC梁S混合構造、  
鉄骨柱脚と接続する鉄筋コンクリート造
- 「コンクリートの設計基準強度」：21 N/mm<sup>2</sup>以上かつ60 N/mm<sup>2</sup>以下  
「鉄筋」 普通強度鉄筋ネジ onicon(種類)SD345, SD390, SD490 (呼び名)D19~D41  
JIS G 3112 異形棒鋼(種類)SD295, SD345, SD390, SD490(呼び名)D13~D41  
ただし、柱RC梁S接合部・柱SRC梁S接合部編において、柱主筋鋼種を  
SD490とする場合、コンクリートの設計基準強度は、24 N/mm<sup>2</sup>以上かつ60 N/mm<sup>2</sup>  
以下とする。  
「定着金物」 オニプレート (FCD700-2) JIS G 5502(球状黒鉛鉄品)  
(FCAD1200-2) JIS G 5503(オーステンパ球状黒鉛鉄品)  
FRIP定着板 非調質高強度鋼、S45C「みがき棒鋼」
- 適用箇所 柱梁接合部への大梁主筋の定着、柱梁接合部および基礎への柱主筋の定着、  
鉄骨柱脚と接続する柱型部への基礎梁主筋およびアンカーボルトの定着

### 技術評価の主な審議事項

今回の技術評価では、オニプレート定着工法 FRIP定着工法 RCS混合構造設計指針(2026年)で改定した鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着部編の妥当性について、審議が行われた。

### 技術評価の経過

2025年12月15日開催の第69回建築構造技術審議委員会(以下、本委員会と略記する)において、申込者提出の技術資料について検討し、詳細検討は、専門部会を設けて行うこととした。専門部会では、本委員会での指摘事項を踏まえて修正された技術資料について、慎重に審議を行い、結果を2026年3月11日開催の第70回建築構造技術審議委員会に報告した。

建築構造技術審議委員会では、申込者提出の技術資料について慎重に審議を行い、本技術は妥当なものであると判断した。

以上